

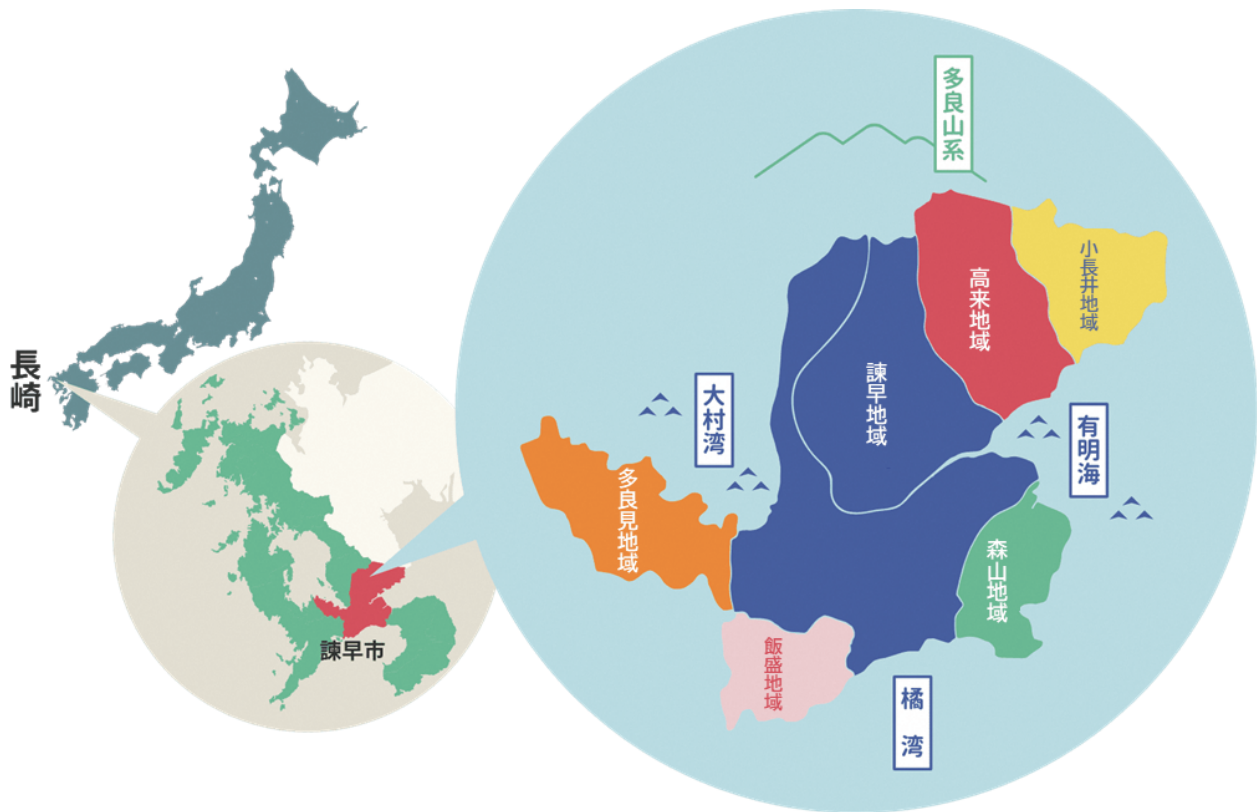
第2章 諫早市の課題と未来への展望

1 諫早市の現状

(1) 諫早市の概要

本市は長崎県の南部中央に位置し、長崎半島・島原半島・西彼杵半島の接点にあたる交通の要衝として、古くから重要な役割を果たしてきました。東は有明海、西は大村湾、南は橘湾に囲まれ、北には多良山系が広がる豊かな自然環境に恵まれています。市の中心部を流れる本明川は市街地を貫き、有明海へと注ぎ、下流に広がる諫早平野は、県内最大の穀倉地帯として知られています。

気候は年間を通して温暖であり、豊かな自然環境と優れた交通アクセスが調和した、暮らしやすい都市環境を形成しています。また、産業用地や住宅地としての魅力も高く、多様な都市機能の発展が期待されています。



市の面積

● 341.79 km²



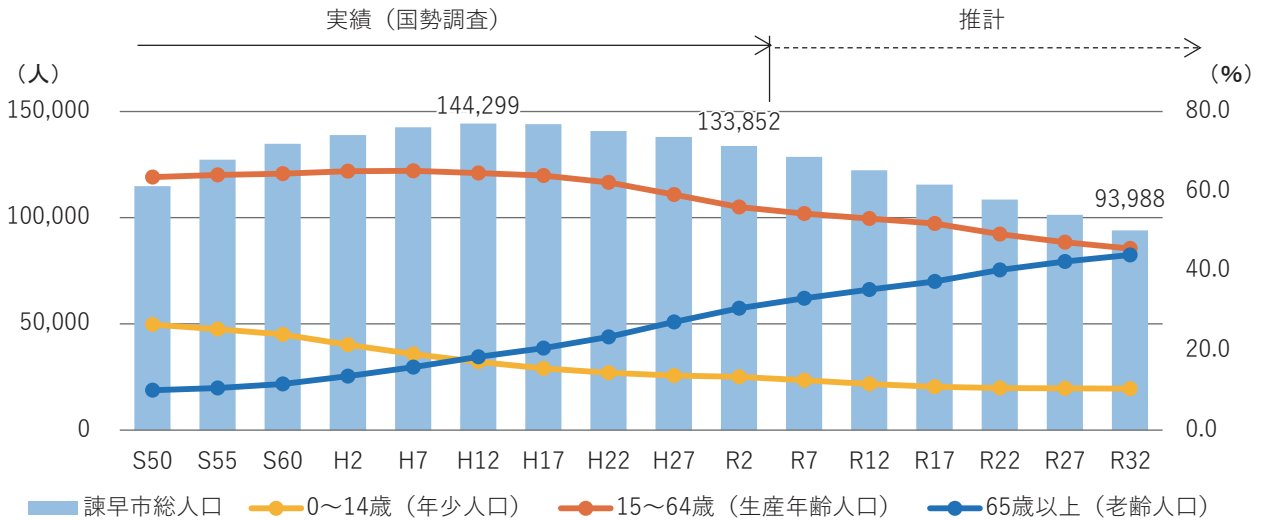
人口と世帯数

- 総人口 130,152人
- 人口(男) 62,435人
- 人口(女) 67,717人
- 世帯数 55,691世帯

※総務省が公表する人口速報集計結果と異なる場合があります。

(2)人口推移・将来予測

- 本市の人口は、平成12年をピークに減少傾向にあります。
- 国立社会保障・人口問題研究所の試算では、令和32年の総人口は93,988人、高齢化率は44%と、およそ2.3人に1人が高齢者になることが予測されています。

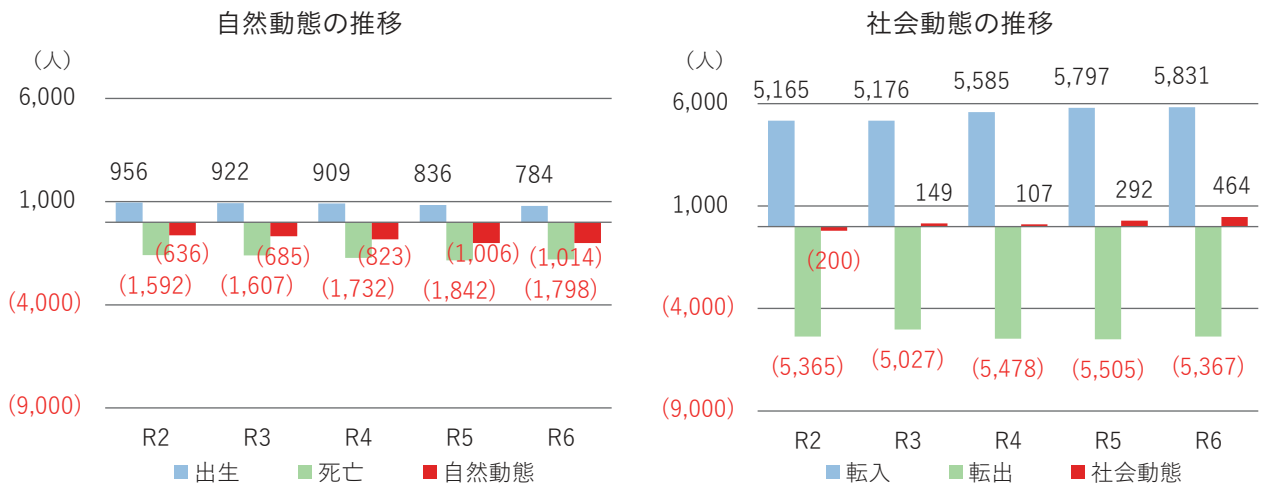


出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計値 令和5年12月22日公表

(3)自然動態・社会動態

①自然動態・社会動態の推移

- 自然動態は、死亡が出生を上回り、毎年1,000人前後の減少となっています。
- 社会動態は、転入が転出を上回り、令和3年以降、4年連続して増加となっています。
- 社会動態は増加していますが、自然動態による減少が大きいことから、全体では人口減少が続いています。

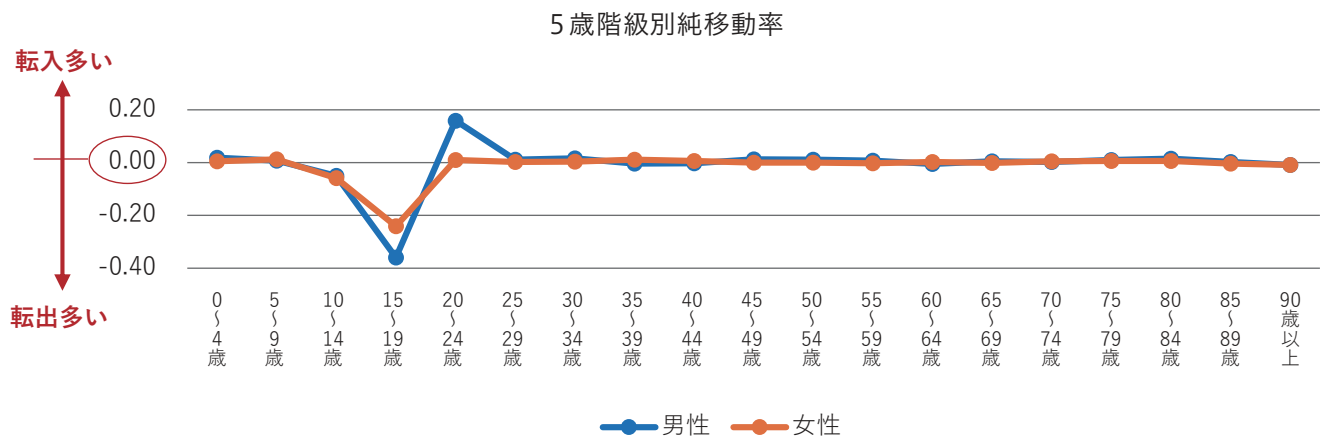


出典：長崎県異動人口調査（令和2年～令和6年調査）

※自然動態：出生・死亡に伴う人口の動き
社会動態：転入・転出に伴う人口の動き

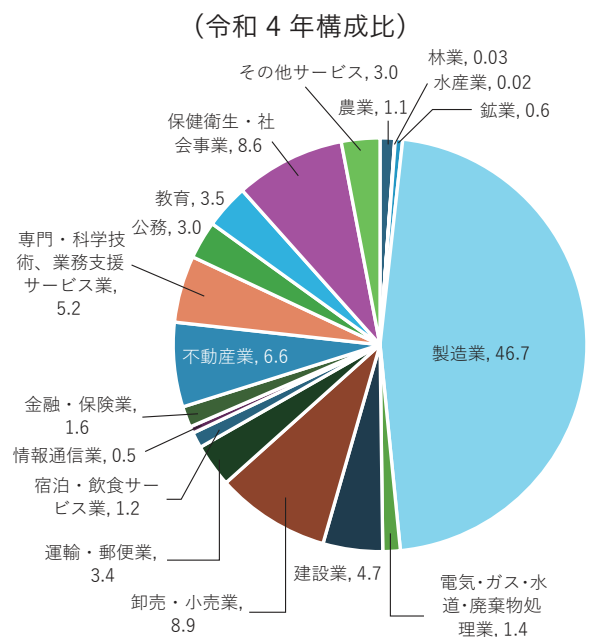
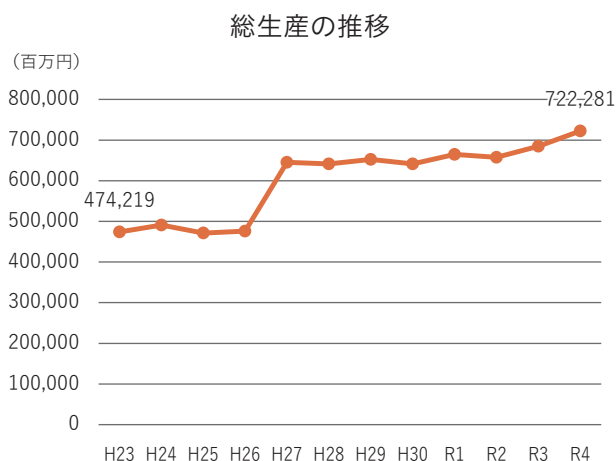
②年齢別で見た社会動態の状況

- 5歳階級での動態では、20代から30代にかけて人口が流出していることが分かります。
- 男性は、20代後半でリターンなどにより転入超過となっていますが、女性は、転入超過となる年代がなく、特に流出が進んでいるといえます。

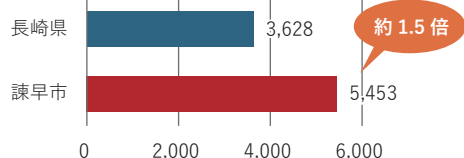


(4) 経済状況

- 本市の総生産は好調な企業誘致などを背景に順調に増加しています。一人あたりの経済規模は長崎県平均の1.5倍と高い水準にあり「稼ぐ力」が強いといえます。
- 分野別でみると企業誘致などの影響により「製造業」が46.7%と半数近くを占めており、依存度が大きくなっています。



1人あたり市町別経済規模(総生産/人口)(千円)



出典：令和4年度長崎縣市町村民経済計算

2 まちづくりの課題 ～市民や事業者の声から～

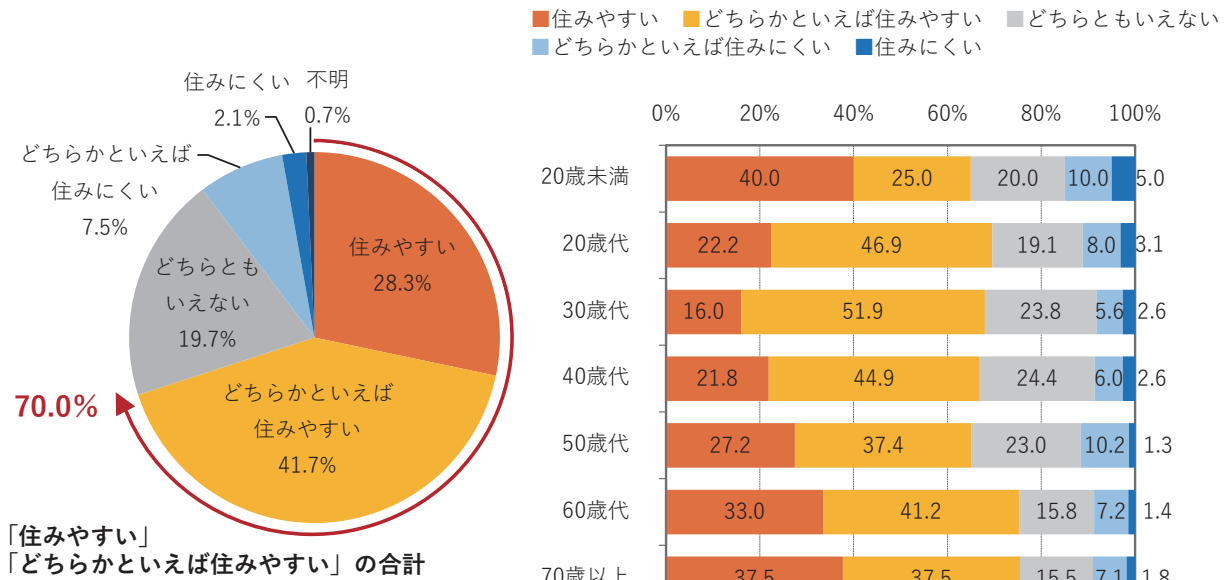
(1) 市民アンケート調査

【調査概要】 諫早市内在住の満 18 歳以上の男女 3,000 人を対象に令和 6 年 9 月～ 10 月に実施。有効回答数 1,285 票、回収率 42.8%

- ・本市の住みやすさについては、「どちらかといえば住みやすい」が 41.7%と最も多く、「住みやすい(28.3%)」を含めると 70.0%が「住みやすい」と回答しています。
- ・定住意向については、「これからも住み続けると思う」が 73.6%を占め、回答者の約 7 割が本市に定住する意向を示しています。
- ・一方、「市外の方に対する観光や移住をどの程度お勧めしたいか(推奨度)」では、観光の推奨度が 20.4%、移住の推奨度が 32.7%とやや低い傾向にあります。

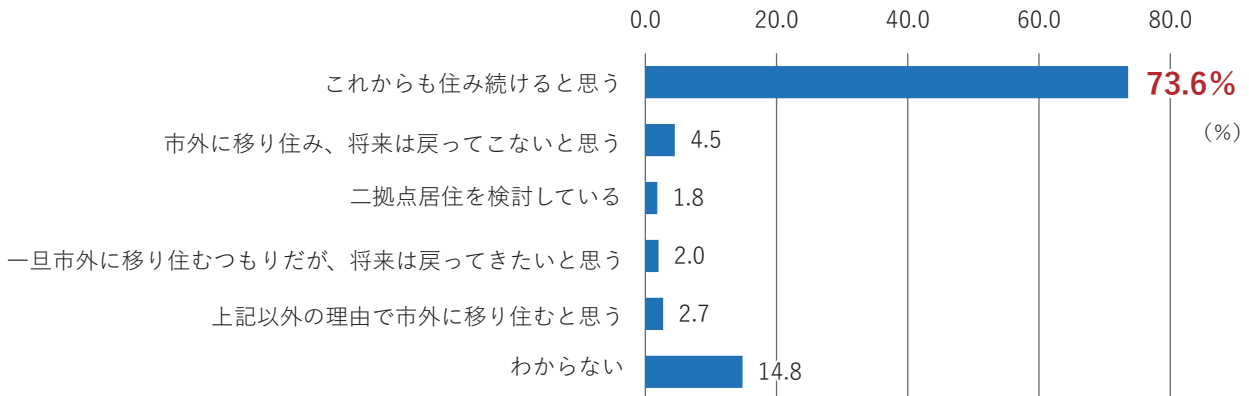
① 住みやすさ

Q：今の諫早市は住みやすいところだと思いますか？



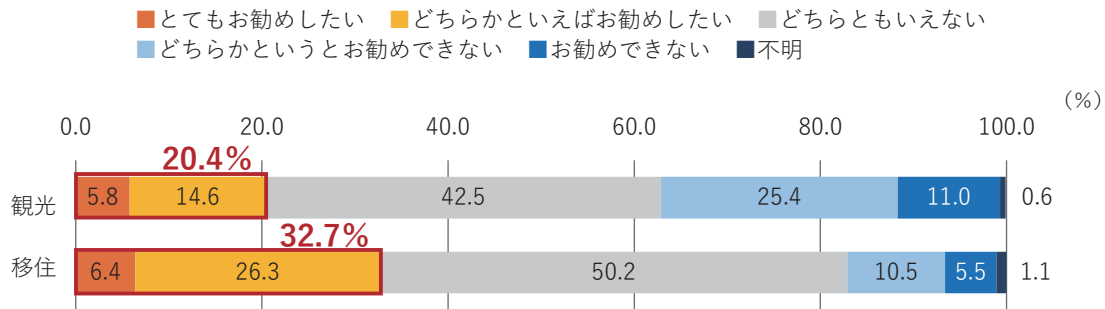
② 定住意向

Q：今後も諫早市に住み続けたいと思いますか？



③観光・移住推奨度

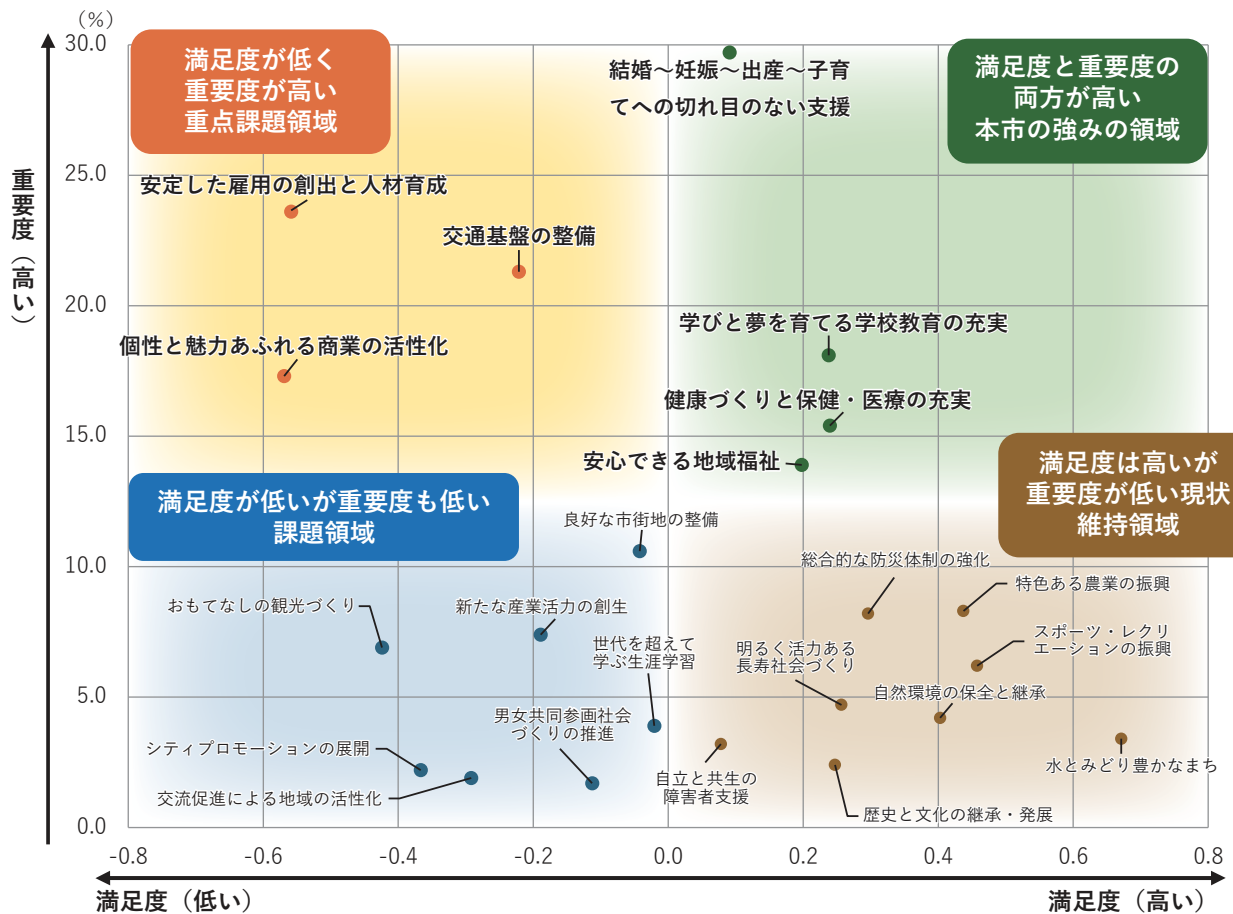
Q：市外の方に諫早市への観光・移住をどの程度お勧めしたいですか？



④満足度・重要度

- ・満足度に重要度を掛け合わせると、満足度と重要度がともに高い「子育て」、「学校教育」「健康づくりと保健・医療」、「地域福祉」などは、本市の強みとなる分野といえます。
- ・満足度が低く、重要度が高い「雇用の創出と人材育成」、「交通基盤の整備」、「商業の活性化」などは、本市の重点課題分野といえます。

市民アンケート調査結果：満足度×重要度に基づく分布



※満足度指数：{大変満足×2+やや満足×1+わからない・不明×0+やや不満×(-1)+大変不満×(-2)} / 回答数
 ※分布図の施策については、主なものを記載しています。

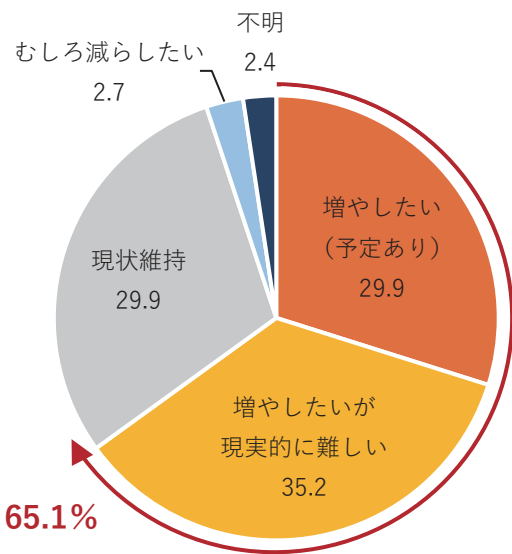
(2) 事業所アンケート調査

【調査概要】 市内事業所 660 者を対象に令和 6 年 10 月に実施
有効回答数 335 票、回収率 50.8%

- ・ 今後雇用を「増やしたいが現実的に難しい」が最も多く 35.2%となり、「増やしたい(予定あり)」を含めると 65.1%が雇用を増やしたいと回答しています。
- ・ 後継者の有無については、「後継者が決定している」との回答は 34.9%に留まり、「後継者が決まっていない(27.8%)」、「自分の代で廃業予定(8.4%)」と約 3 割が後継者不足もしくは廃業が決まっていると回答しています。

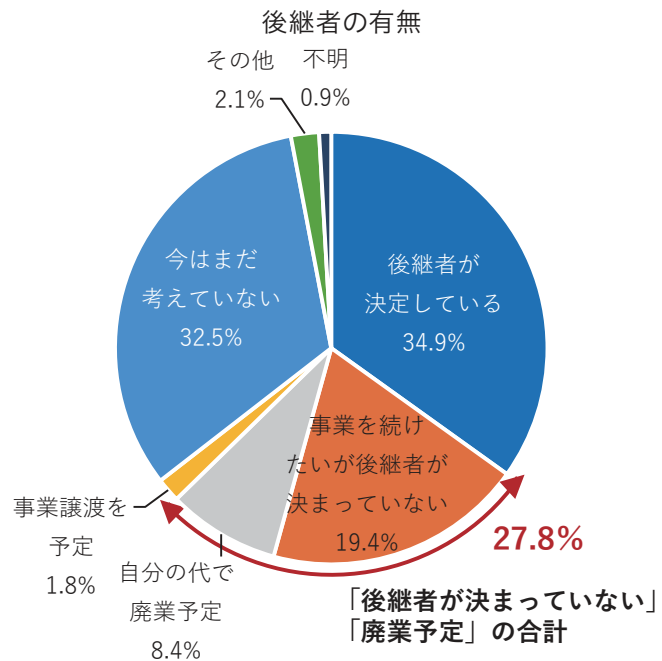
① 労働力・後継者不足

Q：今後雇用を増やしたいと思いますか？



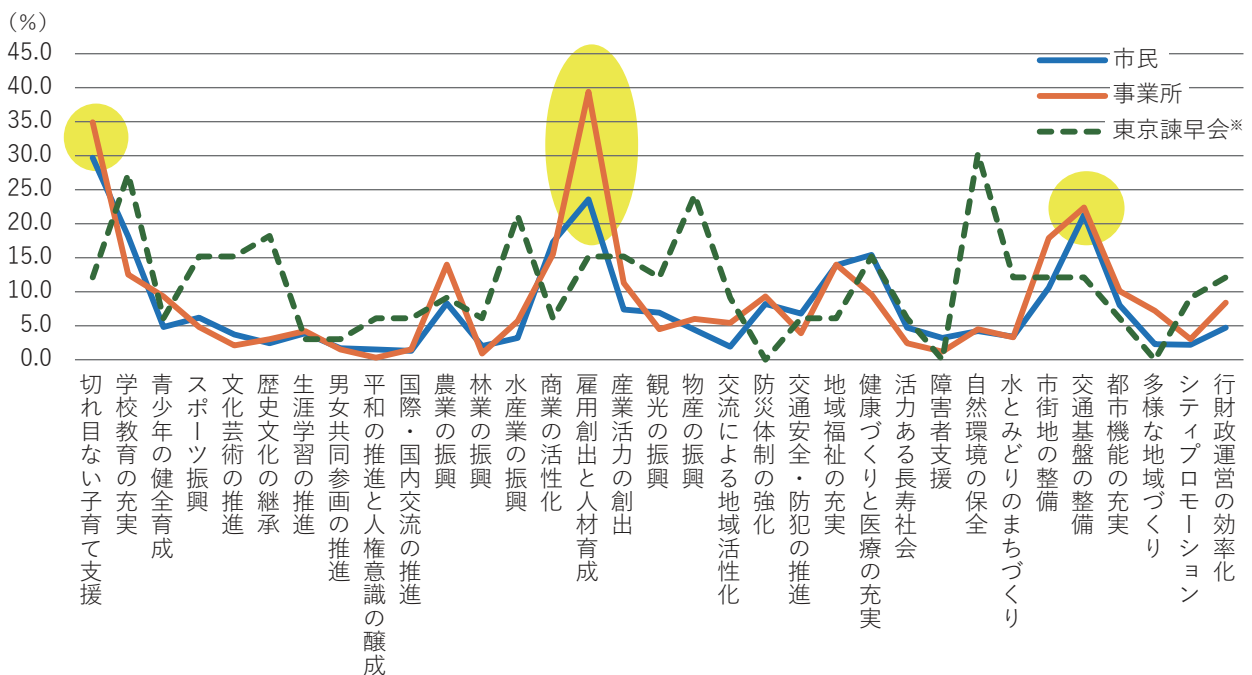
65.1%

「増やしたい (予定あり)」「増やしたいが現実的に難しい」の合計



「後継者が決まっていない」「廃業予定」の合計

② 分野別まちづくりの重要度比較



※東京諫早会：東京都および近郊に在住・在勤する諫早市出身者やゆかりのある方々で構成される団体

(3) 市民ワークショップ

総合計画に市民の皆さんのまちづくりに対する考えやアイデアを反映させるため、高校生・市民ワークショップを開催しました。ワークショップでは、本市の魅力や強み、課題などを話し合いながら、その資源を活かしたまちづくりや、将来のまちのキャッチコピーなど、多くのアイデアが提案されました。

高校生ワークショップ

(開催日) 令和6年10月26日 (参加者) 市内8高校から32名



(主な意見)

- ・ 諫早は滝や川、山など自然が豊かで、きれいな景色や映える場所が多い! もっとPRすべき!
- ・ 諫早の高校は部活動が強い学校が多く、スポーツ施設も充実している。大会や合同の行事で学校を超えて交流をしたい!
- ・ 農業や漁業が盛んで、野菜や魚などが豊富。地元の飲食店やイベントで楽しめるまちにしたい!

市民ワークショップ

(開催日) 令和6年11月16日 (参加者) 市内在住14名



(主な意見)

- ・ 野菜や米、海産物などが豊富だという地域の強みを活かし、後継者不足や耕作放棄地の課題にも取り組む必要がある!
- ・ 学生の活力や起業意欲の高さは大きな魅力。起業の仕方を学べる場や、空き店舗の活用、学習や交流の場をさらに広げていきたい!
- ・ 諫早の魅力を十分に発信できていないので、SNSや動画など多様な手段で効果的に伝えたい!

まちづくりの課題まとめ

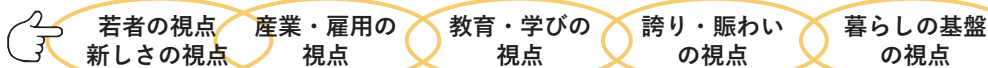
基礎調査結果や総合計画審議会での意見を踏まえ、まちづくりの課題を「若者・新しさ」、「産業・雇用」、「教育・学び」、「誇り・賑わい」、「暮らし」の5つの視点で整理しました。



諫早市のまちの良いところ（伸ばすべきところ）・課題（改善すべきところ）は何か？

諫早市ではどんなまちづくりが必要？（5つの視点から分析）

分析の視点



①若者の視点 ・新しさの視点

若者や女性をはじめ全世代が住み続けたい、今後住んでみたいと思える魅力的で活気のあるまちづくりが必要です。

②産業・雇用の視点

企業誘致と地場産業の振興を両輪で進め、仕事に生きがいを感じる事ができる雇用を創出する必要があります。

③教育・学びの視点

市民誰もが目標に向かって学び続けられる、多様な学びの場と機会に恵まれたまちを創ることが必要です。

④誇り・賑わいの視点

諫早の魅力をみんなで磨き、発信することで、市民は誇りを持ち、活気のあるまちを創ることが必要です。

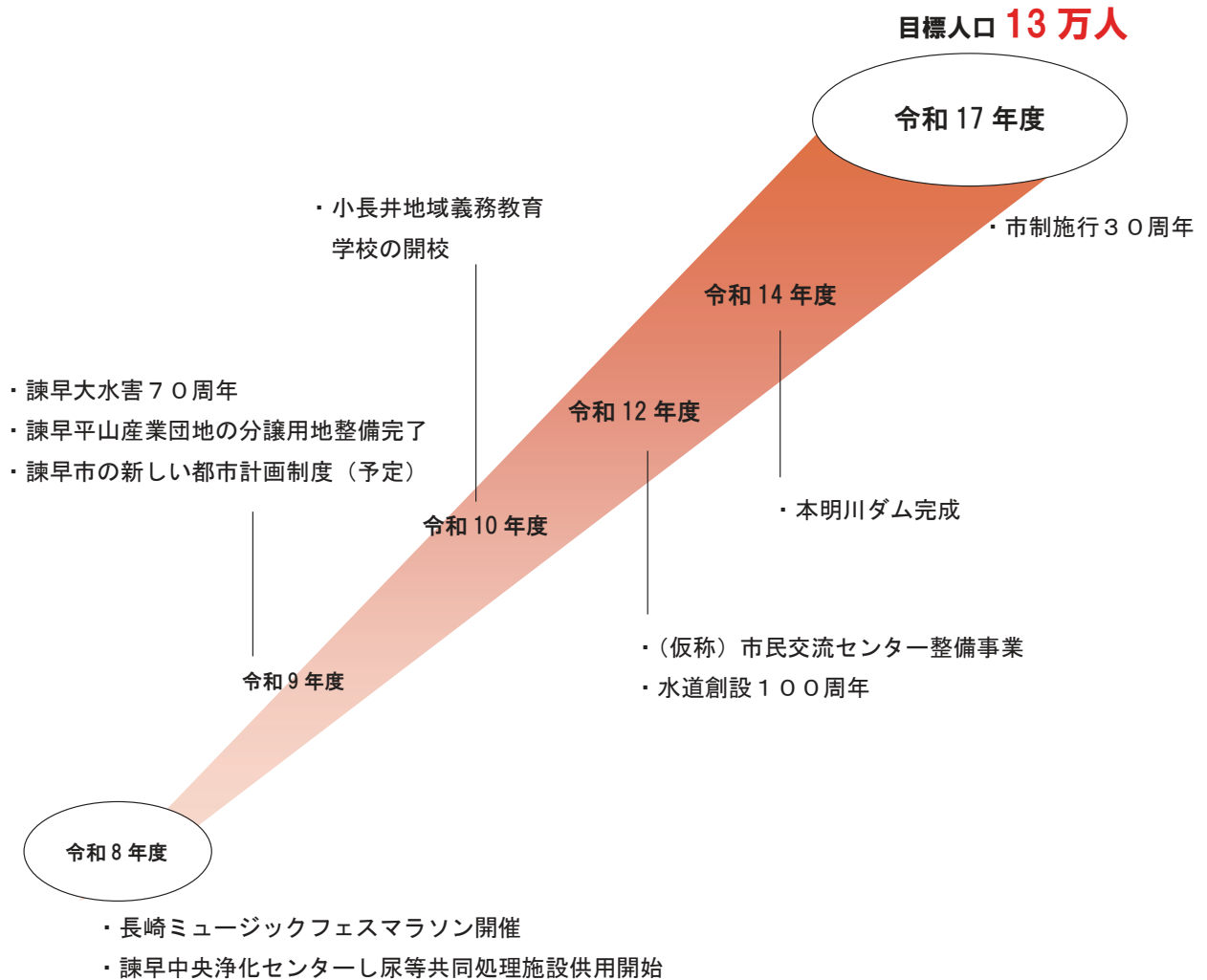
⑤暮らしの基盤の視点

誰もが安心して便利に暮らせる機能的なネットワーク型のまちの基盤を創ることが必要です。

3 今後10年の主な出来事

計画期間の最終年である令和17年度は市制施行30年の節目にあたる年です。

令和8年度からの10年間では、新たな産業団地の整備や都市計画制度の運用開始、(仮称)市民交流センターの開設など、本市の新たな魅力と活力を生み出す様々なまちづくり事業が展開されます。



その他、今後想定される主な出来事

- ・島原道路(森山西 IC - (仮)尾崎 IC 約 1.5 km)の供用開始
- ・国道 34 号大村諫早拡幅(約 4.4 km)の供用開始
- ・国道 207 号東長田拡幅(約 1.9 km)の供用開始